

## 目標

### 1. 精度の高い判定

→ 客観的に正しい判定を出す

入試結果調査の検証\*で、精度の高さを証明できる

(\*データネットでB判定の生徒群が実際に60~80%の合格率だったかどうかの検証を行う)

### 2. 納得度の高い判定

→ 信頼し、納得して判定を使っていたかく

先生方・生徒の感覚に合致する判定\*をご提供

(\*前年度の結果だけを見て判定を付けるのではなく、複数年の結果及び進研模試の志望状況を確認し判定を付ける)

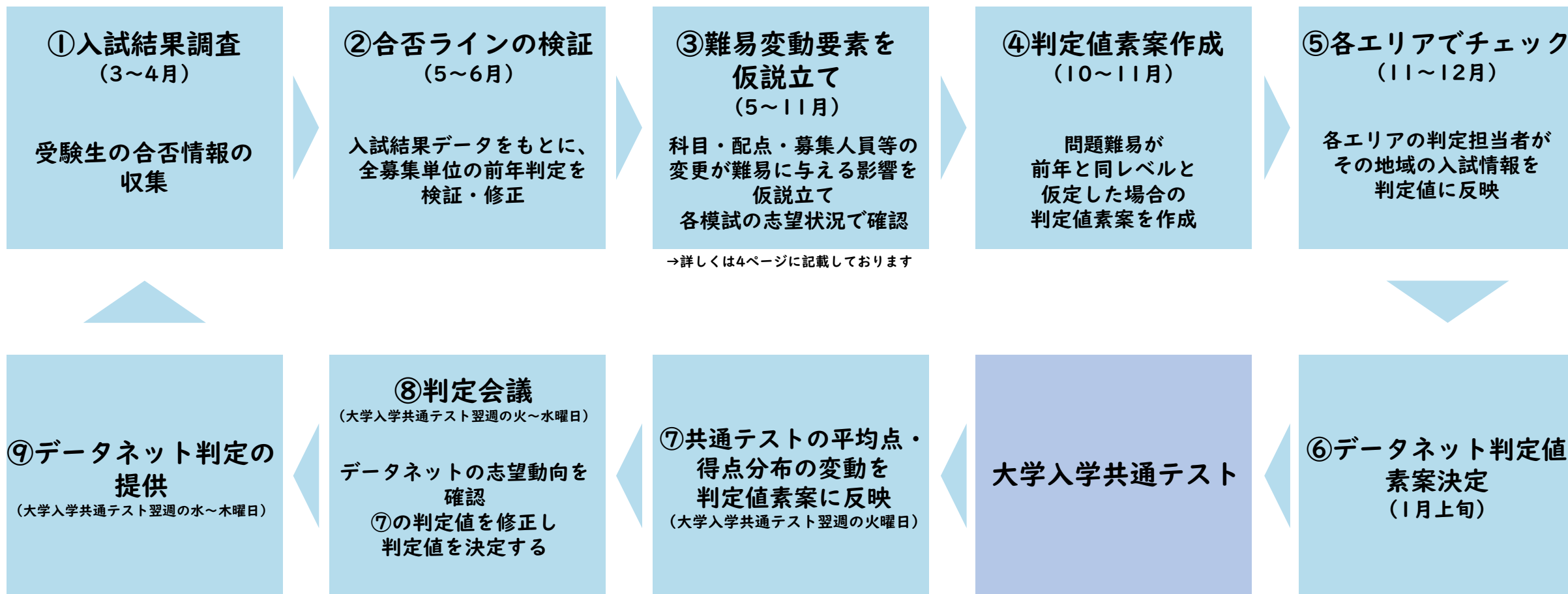
## 願い

先生にとって

→ 指導に安心して使っていただけ判定

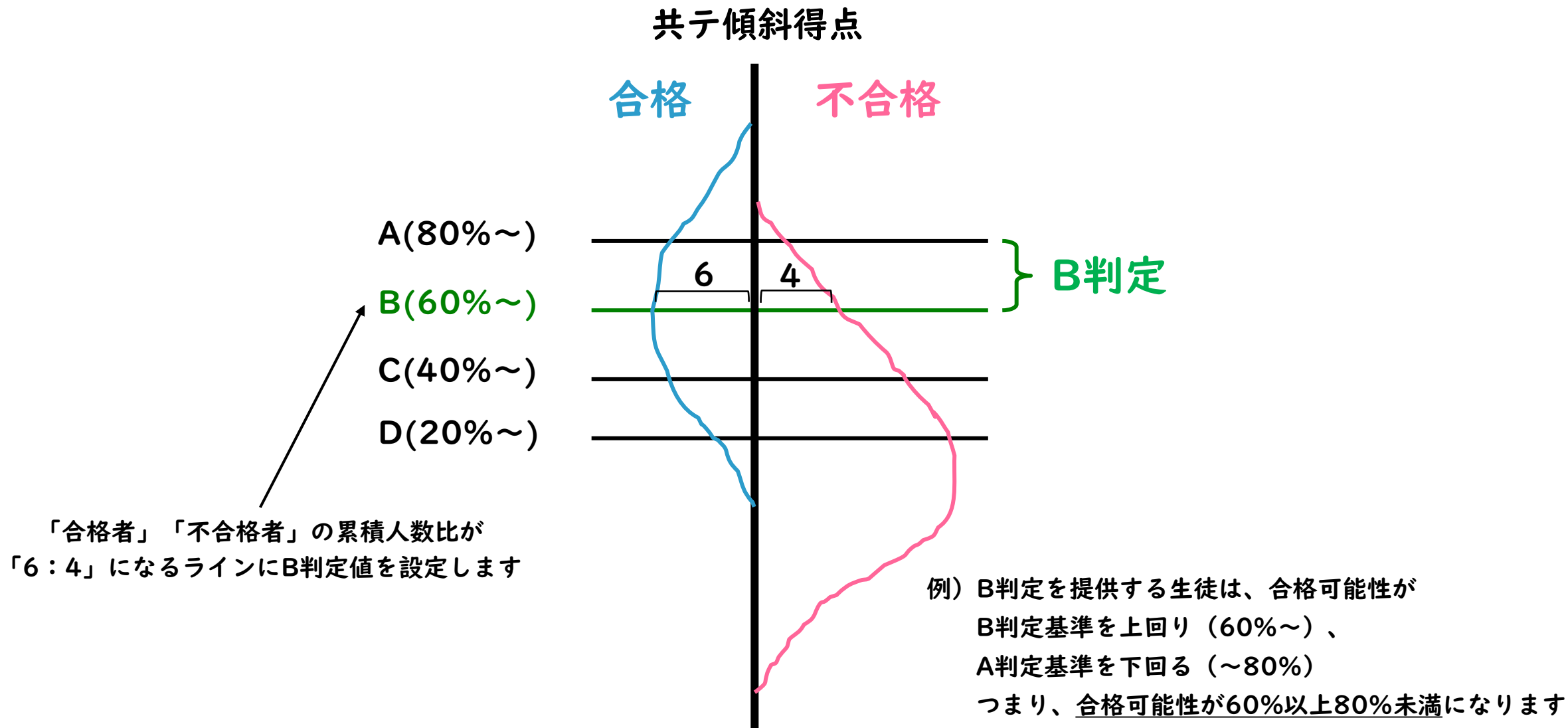
生徒にとって

→ 信頼され、出願の指針になる判定



## 3

## 各判定基準の合格可能性について



## 難易変動要素

## 例

## 入試制度の変更

- ・ 募集人員の変更
- ・ 入試科目・配点の変更
- ・ 入試日程の変更（例：後期日程廃止など）
- ・ 入試方式の変更（例：web出願/全学部入試など）

## 大学の人気

- ・ 大学の再編/統合
- ・ 学部の改組
- ・ 立地条件
- ・ マスコミへの露出/大学からの発信度

## 社会情勢の変化

- ・ 18歳人口の減少
- ・ 景気/就職の状況変化（例：安全・地元志向など）

## 地区の特性

- ・ 地元の評価
- ・ 高校改革による地元高校生の学力変化

入試結果や模試の志望状況だけでなく、  
上記のような情報もしっかり収集し判定値への影響を考えています

# 5 高い精度の判定を保証する要素

## 判定の精度を高める

### 【データネット収集データ数】

→毎年、受験者の約80%のデータを収集

### 【入試結果調査の規模】

→前年入試の検証に使う入試結果調査では、全国から受験生の合否情報を最大規模で収集

### 【入念な判定の検証・修正】

→地元情報、変動要素などを収集し仮説立てを行う。各模試の志望動向も確認

### 【一般的な序列の考え方】

→単純な志望者の増減だけで判定値を上げ下げするのではなく、変動する理由があるかどうかを確認

新設や改組のある募集単位には、  
前年の入試結果がない

推測して判定値を設定する必要がある

方法は…

既存の募集単位 の判定値と比較をする

判定付けの参考とする条件の一例

- ・ 学問系統が同じ
- ・ 入試科目/配点と同じ

上記の条件を満たす募集単位をできるだけ多く探し、  
これらの募集単位の得点率を参考にして判定付けを進める

\*補足：新設や改組のある募集単位の判定作成の流れ

新設や改組のある募集単位では  
この部分ができない



この部分の工程は、既存の募集単位の判定付けと  
新設や改組のある募集単位で同じ

最終的には新設や改組のある募集単位も  
ほぼ同レベルの精度で判定付けを行っています